

—116号目次—

- 第40日本保健医療行動科学会学術大会 大会長挨拶 1
- 第40回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内（第3報） 2
- 【本の紹介】『「ホーホー」の詩ができるまで—ダウン症児、こころの子育ての10年』 3
- 【本の紹介】『臨床哲学』 4
- 第6回オンライントーク 実施報告 5
- 会員登録情報の確認のお願い 6
- お知らせ・編集後記 7

第40日本保健医療行動科学会学術大会 大会長挨拶

行動科学の「知」を結ぶ
医療人類学、エスノグラフィ、パフォーマンス

道信 良子
(福井県立大学)

この度、第40回日本保健医療行動科学会学術大会を2026年6月20日(土)から6月21日(日)に、福井市において開催することになりました。大会を主催するにあたり、ご挨拶を申し上げます。

本大会の北陸での開催は初めてであり、皆さまをお迎えすることができますことをうれしく思います。会場は福井市内の福井市地域交流プラザ(AOSSA)です。

本大会のテーマは「行動科学の『知』を結ぶ——医療人類学、エスノグラフィ、パフォーマンス」としました。本学会

は、保健医療行動科学のさまざまな領域を統合している学会であり、その多彩な活動から得られた理論、方法論、実践をもとに、「病いや障がい生きること」「病いや障がいを生きる人を支えること」そして「人を包むまち」などについて、エスノグラフィやパフォーマンス(創造的実践)も取り入れながら考えてきたいと思えます。

日本の保健医療福祉制度は、1986年に本学会が設立されてから40年の間に大きく発展しました。同時に、医療の技術が高度になり、保健医療福祉領域を専門とする行動科学や社会科学の専門家が育ち、人々の健康とウェルビーイングの向上に貢献してきました。

その一方で、日本社会に生きる人々のつながりは希薄になり、孤立や孤独を感じる人も増えています。医療の進歩は、医療によるケアを受けて生活している人と家族が安心して暮らせる社会の仕組みづくりをうながしています。

このような社会背景をふまえて、本大会では、メンタルヘルスや孤立・孤独、さまざまな人をつなぐものは何かについて、アートやナラティブなども取り入れながら考える場も企画しました。

実行委員一同、多くの学会員、研究者、学生、市民の皆さまの参加をいただき、保健医療行動科学の最新の知見を交換し、ともに学び、語り合い、交流する機会となるよう、本大会を運営していく所存であります。

開催時期となる6月中旬の福井は、あじさいの花がきれいに花を咲かせる時期です。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。



第40回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内（第3報）

2026年6月20日（土）・21日（日）の2日間、福井市において「第40回日本保健医療行動科学会学術大会」を開催いたします。

現在、事前参加登録、一般演題の募集を行っております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。大会の詳細は公式HPをご覧ください。

<https://2026jahbs.notion.site/>

会場の福井市地域交流プラザ(AOSSA)は福井市の中心部でJR福井駅から徒歩1分の立地です。周辺は商業施設なども充実しております。学会とあわせて、ぜひ福井のグルメをお楽しみください。



◆開催概要

- ・テーマ：行動科学の「知」を結ぶ
医療人類学、エスノグラフィ、パフォーマンス
- ・大会長：道信 良子(福井県立大学 看護福祉学部)
- ・会期：2026年6月20日（土）～21日（日）
- ・会場：福井市地域交流プラザ(AOSSA)
(福井県福井市手寄1丁目4-1)
(JR福井駅より徒歩1分)
- ・公式HP：<https://2026jahbs.notion.site/>



◆演題募集(一般演題：口頭発表・ポスター)

絵・信田静香

- ・募集期間：2026年3月1日（日）～2026年4月30日（木）
- ・登録URL：下記フォームよりオンライン登録をお願いします。

<https://forms.gle/u4VNAoDwzEmyKpzCA>

◆事前参加登録

- ・登録期間：2026年3月1日（日）～2026年5月31日（日）
- ・登録URL：<https://forms.gle/1yoqfvbPZAJC2vPW7>

◆宿泊申し込み

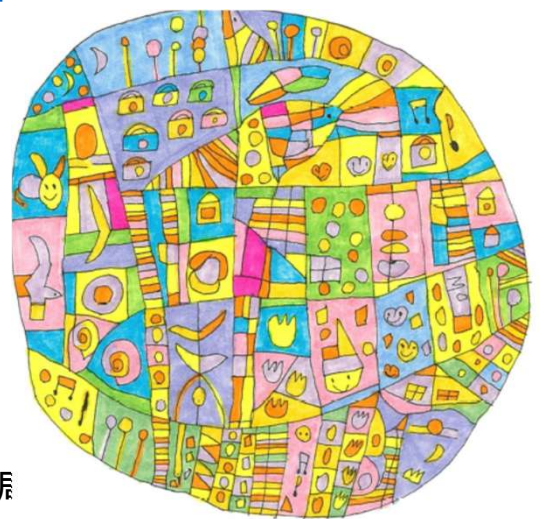
学会当日は大型イベントと重なっております。宿泊申し込みもご利用ください。

宿泊施設：ホテルフジタ福井

(<https://www.hotel-fujita.jp/fukui/room/286/>)

宿泊料金(1泊・税込) 朝食なし：10,400円

朝食あり：11,950円



絵・信田静香

◆お問合せ先

第40回日本保健医療行動科学会実行委員会事務局

担当：蓮井 貴子(大会事務局長)

Email: 40jahbs@gmail.com

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1 日本赤十字北海道看護大学内

『「ホーホー」の詩ができるまで— —ダウン症児、こころの子育ての10年』

出窓社 信田敏宏著

紹介者 蓮井貴子（日本赤十字北海道看護大学）

「ホーホー」の詩が できるまで

ダウン症児、こころ育ての10年

国立民族学博物館 信田敏宏 Mitsuhiko Yoshikino

「ホーホー」

ホーホーとなきます。
ぱさぱさととびます。
くらいところにいます。
さがしてみてね。
きょうのよる
まっています。



信田静香さんの「ホーホー」の詩を読んだとき、なんて純粹で、やさしくて、かわいらしい詩なのだろうと思いました。暗いところでじっと誰かを待つふくろうの姿が、静かに目の前に浮かんできました。この詩はどのようにして生まれたのか—本書は静香さんが生まれてからの10年の記録です。

著者の信田敏宏氏は国立民族学博物館の研究者であり、ダウン症をもって生まれた静香さんの父親でもあります。静香さんが生まれてからの葛藤や試行錯誤が、本書の中で丁寧につづられています。診断を告げられた戸惑い、どう育てればよいのかという問い、その率直な記述が静かに心に届きます。そして、静香さんが生まれてすぐ、混乱する著者に義理の父がかけた言葉が印象的です。「この子にはハンディがあるかもしれへんけど、どんなすばらしい人生が待っているかわからへん。悲観したらあかんで。人生は良い方、良い方に考えていかなあかんで」。この言葉を読んだとき、私自身もなぜか胸が熱くなり、勇気をもらった気がしました。

そのときどきの「妻のまなざし」として綴られる母親の視点も本書に温かみを添えています。著者夫妻が静香さんの成長のペースに合わせて、興味のあることを丁寧に伸ばしていく関わりが随所に描かれています。それはまさに愛情に裏打ちされた実践知の記録でもあります。

そうしたご両親の「できないこと」ではなく「好きなこと」に光を当てる姿勢は、障害のある子どもがかけがえのない存在として社会の中でともに生きるという、インクルージョンの本質をごく自然なかたちで示しています。こうした家族の日常の営みの中にこそ、大切なものが宿っていると改めて感じました。

本書を閉じたとき、不思議とやさしく温かい気持ちが広がっていました。「ホーホー」という詩が持つ力と同じように、この本には人を勇気づけ、そして優しい気持ちにさせる何かがあります。保健医療に関わるすべての方にぜひ手に取っていただきたい一冊です。

※本書の著者・信田敏宏先生と信田静香さんには、日本保健医療行動科学会第40回学術大会にもご登壇いただけることになりました。現在、芸術家として活動されている静香さんの絵を、学術大会ホームページに使用させていただいています。

『臨床哲学』

田坂さつき著 KADOKAWA 2022年11月
紹介者 本学会会長 諏訪茂樹(東京女子医科大学)

「社会保障を抑えて手取りを増やすべき」「多様性もいいが今は少数派が暴走している」などの意見が、SNSの影響を受けた一部の医療系学生からも聞かれるようになった。他方で、看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)はプロフェッショナリズムにおいて、「アドバンスケアプランニング、事前指示書遵守、延命治療、蘇生不要指示、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控え等について理解している」ことを求めている。これらの生と死にかかわる問題を、社会保障の抑制を主張するポピュリズムの影響を受けながら学習をすると、命と健康と尊厳を守る医療ケアから遠のいてしまわないか。



このような不安を募らせている私の手元に、立正大学哲学科の田坂さつき先生から、ご著書『臨床哲学 立正大学文学部哲学科での取り組み』(KADOKAWA 2022年)が届いた。同大学での臨床哲学対話を中心にして、ご自身の教育実践をまとめられたものであった。臨床哲学対話の授業で学生たちは、ALS(筋萎縮性側索硬化症)や重度重複障害の患者、利用者、ご家族などと、ご自宅や福祉施設を訪問したり、オンラインで教室とつないだりして対話・交流する。そうすることを通して、三人称ではなく二人称(いま目の前にいる相手)の生と死の問題に触れて、さらに一人称である学生自身の生と死についても、思索を深めることとなる。

田坂先生の言葉をいくつか紹介すると、「関係性の中で生きている人間が、死がそもそも個人に閉塞した問題ではないのにも拘わらず個人の決定に委ねることで、関係性の中にいる他者の権利を蹂躪することになる(後略)」(p.40)、「患者は状態が悪くなって初めて本音がいえるという医師もいる」(p42)、「社会がなすべきことは、そのような不利な状態にある人々が差別されることなく日常生活を送れることであり、治療が唯一の選択肢ではないはずである」(P68-69)等々。

命と健康と尊厳を守るとはどういうことなのか。この保健医療行動のベースとなる基本信念を考えるうえで、とても大切な示唆を数多く提供してくれる。ご一読をおすすめしたい。

第6回オンライントーク 実施報告

諏訪茂樹(東京女子医科大学)

【テーマ】 生成AI時代の保健医療行動
- 生成AI利用の可能性と課題 -

【講師】 村岡 潔

【日程】 2026年1月18日(日)20:00~21:00

近年、生成AIが著しく発展・普及し、保健医療の分野でも利用が進みつつある。

2026年1月18日(日)20:00~21:00に実施された第6回オンライントークは「生成AI時代の保健医療行動」をテーマとし、生成AIの利用が保健医療行動に及ぼす影響、その可能性と課題について、早くから熱心に研究されてきた本会評議員の村岡潔氏(岡山商科大学客員・京都府立医科大学兼任)にミニレクチャーをお願いし、その後、参加者同士で情報や意見を自由に交換した。

講師の村岡氏には極めて豊富で有益な情報をコンパクトに発表いただいた。参加者もそれぞれが、生成AI利用の可能性と課題、生成AI時代の保健医療行動の在り方について、様々に考えることができたと思われる。生成AIは人をアシストする道具であり、決して人に代わるものではないという、共通認識も醸成されたと言える。

参加者の感想の一部を、文章に少々加筆しながら紹介すると、次の通りである。

✍ 医療やチームにおけるAI利用の可能性を感じました。また、やはり大切なこととして、使う人間の知恵が求められるということを改めて感じました。

✍ 実習指導で学生をつれて病棟に行きます。現場をみるともう少しAIを活用して業務を充実させたり、スタッフの業務負担を減らせたりできればいいなと思います。今回のAIの可能性と課題の視点を生かして実習指導していきたいと思います。

✍ AIは便利な反面、使い方に注意が必要だと感じています。AI の回答が正しいとは限らないため、自分にエビデンスがないとAIから得た回答が正しいかどうか判断ができません。個人の学習が大切だと実感しています。道具に使われないように気をつけながら、使い方を考えたいと思います。

✍ 昨今は共同意思決定ということが言われていますが、患者の意思決定支援にどのようにAIが使えるのか、また、ケアマネさんのケアプランも生成AIで作成が可能になるのか、そんなことも今後考えてみたいです。

なお、今回の申込者は保健医療職13名、教育職14名、その他3名の合計30名(会員20名、非会員10名)であり、実際の参加者は16名であった。



絵・信田静香

日本保健医療行動科学会雑誌 「投稿論文」随時受付中

- 学会雑誌に掲載する投稿論文は随時受け付けています。
- 雑誌の発行は年2回(6月及び12月の予定です)。
- 投稿原稿の種類は、原著論文、総説、研究ノート、資料、実践・活動報告です。
- 投稿論文は「オンライン投稿・査読システム(Editorial Manager®)」にて受け付けとなります。
- 投稿手順等の詳細は本学会 Web サイト(<https://www.jahbs.info/>)の「『雑誌』投稿について」のページに掲載しています。

▼会員登録情報の確認のお願い

今年も出会いと別れの季節がやってまいりました。会員の皆様におかれましては、新しい職場に移られる先生もおいでかと思えます。そこで住所やご所属の変更がございます先生は、今一度会員情報登録変更をお願いいたします。

～登録情報変更方法～



- ①学会HPの左側サイドメニューより 会員マイページをクリックしてください。
- ②会員マイページから、
<https://jahbs.smoosy.atlas.jp/mypage/login>
ログインIDとパスワードを入力し、ログインしてください。
- ③会員マイページトップ画面の左サイドメニューの会員情報をクリック、会員情報を変更するをクリックしてください。
- ④会員情報変更/入力画面よりご変更ください。

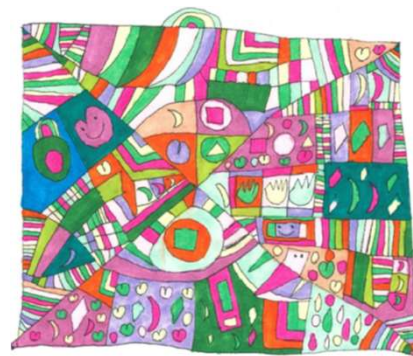
事務局だより

- 2025年度会費（2025年4月1日～2026年3月31日）及びそれ以前の会費が未納の方は、早急に「会員管理システム」よりお支払いの手続きをお願いいたします。会費納入に関してご不明な点やご相談などがございましたら事務局にご連絡ください（会員管理システム導入に伴い、会費の納入はオンラインでの銀行振込（りそな銀行宛）またはクレジットカード決済（各種）となります）。詳しくは本学会 Webサイトを参照ください。
- 2013年6月(第10期)以降の理事会議事録及びニュースレター(第81号～第99号)を学会 Webサイトの会員専用ページに掲載しています。会員専用ページへのリンクは会員マイページトップにあります。ニュースレター第100号以降は学会 Webサイトで一般公開しています。
- 退会をご希望の場合は、本学会 Webサイトから退会届の様式をダウンロードし、必要事項をご記入の上、PDFファイルをeメールに添付して事務局に送付してください。
(事務局連絡先：info@jahbs.info)

📄 会員募集のお知らせ

会員の皆様には、本学会に興味や関心のありそうな方々に、本学会への入会をお勧めくださいますようお願いいたします。なお「日本保健医療行動科学会入会のご案内」は、本学会 Web サイト(<https://www.jahbs.info/>)からダウンロードができます。

ご協力をよろしくお願い申し上げます。



絵・信田静香

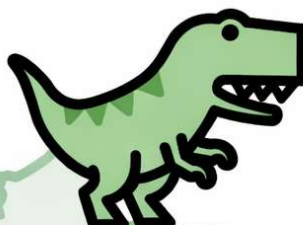
📄 「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集

【日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞】

中川記念奨励賞の候補者を募集いたします。受賞年度において45歳未満もしくは学会入会后10年未満の通常会員で、保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、顕著な業績を上げている方が受賞の対象になります。自薦・他薦いずれでも結構ですので、奮って応募してください。応募者は、本学会 Web サイトに掲載されている最新の「中川記念奨励賞内規(2023.6.17.最終改定版)」及び「中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規(2023.6.17.最終改定版)」を参照の上、履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。

【日本保健医療行動科学会奨励研究員】

本学会では奨励研究員の制度を設けています。これは正会員で、関連分野での研究活動を行いながらも常勤の所属に恵まれられない方々のために、少しでも社会的不利益を補完・救済することを目的とした制度です。この身分を希望される方は、希望の理由と履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。奨励研究員の呼称を認められた方は「日本保健医療行動科学会奨励研究員」の身分を用いて論文の執筆や学会発表ができます。対象者の年齢制限はなく、任期は1年間とし、状況に応じて更新が可能です。審査・登録にかかる費用は無料です。応募期限は特にありません。



編集後記:今号では、大会長のごあいさつ、学術大会のご案内、本の紹介2冊、オンライントークの報告を掲載しました。また、第40回学術大会でご登壇いただく信田静香さんの作品もたくさんご紹介しています。どの作品もとてもかわいらしく、あたたかみがあり、ニュースレターにやさしい彩りを添えていただきました。

次回学術大会の開催地・福井県は、幸福度日本一の県として知られています。保健医療行動科学の理論と実践をもとに、「病いや障がいを生きること」「支えること」「人を包むまち」について、福井の地で皆さまと考える機会を楽しみにしています。

(白土)

